

# 存現句と文脈構成

今井敬子

## 0. はじめに

小論は、物語の文章の言語的特性を明らかにすることを目的に、中国語の存現句を取り上げ、特に前後文脈との関係における特徴を抽出して分析を行う。存現句は、新たに導入された対象（人物や事物）についてその存在・出現・消失を述べる現象文であるが、新たな対象は後続文脈に引き継がれてしばしば談話主題となる。文脈から孤立した文（句）はありえないが、存現句の場合も、前後文脈の中に置かれてはじめて存現句として実現し機能するものである。

小論の1.では存現句の構成要素、考察対象の範囲について述べる。2.では存現句と先行句との関係性について分析する。3.では「只見」構造との類似性について検討する。4.では後続句への連続性、後続句での談話主題化について考察する。5.では存現句における焦点化の問題を考える。

## 1. 考察対象および存現句の構成要素

存現句は、一定の時間・空間のもとでの具体的・個別的な人物・事物の存在や動き（出現・消失）を、まるごとひとつのできごと（現象）として述べる文である。小論で取り上げる存現句は、[場所・時間]+[存在・出現・消失を表す動詞]+[人物・事物]という形式のものに限定し、句頭に「在」などの介詞を伴った形式は考察の対象外とする。また、存現句の拡張形式も扱わない<sup>1)</sup>。

なお、存現句はそれだけで一文（句）ともなるし、また一文の内部の一部（小句）ともなるが、小論ではこれらの区別が必要な場合を除き、その両者をともに存現句と称するものである。

---

<sup>1)</sup> 存現構造の拡張形式とは：前面跑来一个人浑身是伤。（胡2004の挙例）のように存現構造にさらに後続句を加えた一種の緊縮句を指す。不定名詞が置かれるが、文頭は必ずしも場所を表す語ではなく、また、より広範な述語動詞が用いられる。

句頭の場所・時間を表す語句は旧情報であり、句末の存在・出現・消失する人物・事物（存現主体）は新情報であって、旧情報に新情報を加えるかたちで情報伝達が行われるという談話の原則に即した語順をもつ構造となっている。

句頭の時間を表す語句は必須成分ではなく省略されやすい<sup>2)</sup>とする指摘がある（劉1983等）が、小論で後述するように、句頭に限らずより広い文脈の中で存現句を見ると、場所・時間を表す語句は先行する極めて近い文脈内に置かれている。存現句の述語動詞は、存在・出現・消失のいずれかを表すが、「存在」を表す動詞群は、本来的に存在の意味をもつ動詞から、動作動詞に継続アスペクト辞「着」を付した形式まで、多様なものが該当する<sup>3)</sup>。また、「出現」「消失」の場合も多様な動詞が該当するが、「出現」「消失」の意味は文脈において適否が判断されると考えるべきである<sup>4)</sup>。存現句で導入される存在、出現・消失の主体（存現主体）を表す名詞句には、現象の客観的な描写の対象であるため、個別性・具体性が要求され、また、新情報であるため、「定」の名詞（句）でなく「不定」の名詞（句）が置かれるとされるが、文脈の中で存現句を見ると必ずしもそうではない（呉2006等）。小論では特に固有名詞をめぐって、「定」名詞の焦点化の問題について後述している。

存現句の中で導入された新規項目は、しばしば後続文脈において談話主題となるが、必ずしも常に後続文脈に引き継がれるわけではなく、また、引き継がれた場合でも必ずしも常に談話主題となるわけではない。この点は焦点化との関連で考える。

## 2. 先行句の特徴および存現句との関係性

時間・場所を表す語句は、存現句の句頭とは限らず、直前の句を含むきわめて近い先行文脈の中にしばしば置かれる。本節では、先行句（必ずしも直前の句とは限らずに、きわめて近い先行文脈内の句）の特徴および、存現句と先行句との関係性について考察するが、その際、存現句を、存在を表すものと出現を表すもの<sup>5)</sup>とに区分して考察を進める。

---

<sup>2)</sup> 場所を表す語句に関しては：家里来了客人/来了客人のうち、前者は話し手と聞き手の両者が「家」にいない場合、後者は両者が「家」にいる場合とする指摘もある。（胡2004）

<sup>3)</sup> 天空中盘旋着一架直升飞机。（邵2001）は存在を表す例としている。

<sup>4)</sup> 树上掉了一个苹果。視座が樹木の上であれば「消失」、下であれば「出現」を表す。（胡2004）

<sup>5)</sup> 出現に対し、消失を表す存現句は、今回の資料ではほとんど見られなかった。消失するものはその語彙の意味からして後続句へ継承されにくい。

## 2. 1. 静的存現句とその先行句（その1）

存現句の中で、存在を表す句（以下、静的存現句と称する）を先行句との関係性から見ると、以下のふたつのタイプに分類できる。第1のタイプは、先行句において人物の空間移動や姿勢の変化が述べられるものである。人物の空間移動などによってその人物に新しい視野が開け、その視野の中の一定の場所に存現主体が存在することが、存現句の形式で表される。

次の(1)では、先行句において「扉を蹴り開けて部屋に入る」という空間移動が述べられ、その結果、「ベッドの上」という存現主体の存在する場所が視野に入るのである<sup>6)</sup>。

(1)我一脚踏开门进去，杜梅正一个人一边吃橘子一边看电视，床上摊了一片新买的衣服，神态怡然。（过把瘾就死）（扉を蹴り開けて入ると、杜梅が一人でみかんを食べながらテレビを見ていた。ベッドには新しく買った服が広げられ、ご満悦な様子だった。）

次の例は、先行句において「顔の向きを変える」という姿勢の変化が表され、その結果、「角テーブルの花瓶と文机の花瓶」という存現句における場所が視野に入ってくる。

(2)我不回答她底话，我掉过头看别处，方桌上的大瓷瓶和书桌上的小花瓶里都插着梅花。（家）（僕は彼女の話に答えずに、顔の向きを変えて別の場所を見た。角テーブルの磁器の花瓶と文机の小さい花瓶に、梅の花が活けてあった。）

次の例では、「キッチンへ行く」、「食器戸棚を開ける」という継起する空間移動の結果、「（食器戸棚の中を）見る」行為が実現し、それによって「食器戸棚およびその中の碗の表面」という存現句における場所が視野にはいるのである<sup>7)</sup>。

(3)长脚先到厨房里，拉开碗橱的沙门，朝里看看，并不为想吃什么，只是习惯成自然。碗橱里有一些碗脚，上面积了一层薄膜。他关上橱门，从煤气灶下提了一瓶水，就去了厕所。（长恨歌）（「あしなが」は先ずキッチンへ行き、食器戸棚を開けて、中を見たが、何か食べたいわけではなく、ただ習慣になっているだけだ。食器戸棚の中には碗の高台があって、その表面に薄い膜が張っている。彼は戸を閉めて、ガスレンジの下から水の入ったボトルを取り出すとトイレに行った。）

<sup>6)</sup> 例文中の存現句を下線で示し、関与する先行句（の中の要素）を網掛けで示す。以下同様。

<sup>7)</sup> 例文中の下線部のようにふたつの存現句が並列されたタイプに関しては2.2.節も参照されたい。

次の(4)は「入っていく」という空間移動が「時」と共起して、時間設定もなされている。また、空間移動の結果として「見えた」対象として、存現句の光景が述べられている。

(4)进去时看见方才自己喝过水的茶杯已收到一边，杯里放了一个纸条。这显然是…(长恨歌) (入っていくと、さっき自分が飲んだコップはもう(テーブルの)端にかたづけられていて、コップの中に紙切れが入っていた。これは明らかに…

以上のように、第1のタイプは、視点人物の空間移動、姿勢の変化や「見る」という知覚行為によって提示された場所と、存現句で表される対象の存在する場所とが同一のものであり、ここから、先行句と存現句との間には場所の重なりが見られることがわかる。また、先行句には人物の動き(移動や姿勢の変化)という動的な内容が述べられ、一方、存現句のほうは人物・事物の存在という静的な内容が述べられている。

## 2. 2. 静的存現句とその先行句(その2)

第2のタイプは以下のようなものである。

(5)…他…生意时，他理都不理他们，而是从西装口袋里掏出个玩具手机，这个玩具手机像真的一样，里面装上一节五号电池，悄悄按上一个键，手机的铃声就会响起来。(兄弟・下) (彼は…商売をするときには、やつらにかまわず、洋服のポケットから玩具の携帯電話を取り出すが、この玩具はほんものそっくりで、5号電池が装填してあり、そっとキーを押せばベルが鳴るようになっている。)

(5)では、先行句に「玩具の携帯電話」という主題が提示され、その主題の一部分(携帯電話の内部)が、存現句の場所として句頭に提示されている。先行句の主題と存現句の場所とは、「全体と部分」というメトニミーの関係にある。

次の例も類似したものである。

(6)…又上了小山。雨后的小山和树林都清润极了；山后篱内的野茉莉，开得崭齐，望去好似彩云一般。池里荷花也开遍了，水边系着一只小船。(寂寞) (…また小山に登った。雨の後の小山と樹林は清しく潤っていた。裏手のまがきの中の野生のジャスミンは美しく咲きそろう、彩られた雲のように見えた。池のハスもすっかり咲いて、池のほわりには小船が留めてあった。)

上の例では、人物の歩みに伴って小山の中の情景が次々と述べられていく。

先行句の主題として「池」が提示され、その一部分（水辺）が、存現句における場所となっている。ここでは「池」と「(池の)水辺」とが「全体と部分」のメトニミー的關係を形成している。

次の(7)も同様のタイプである。

(7)…屋子里显得死气沉沉。帐子内响着一只蚊子的哀鸣。窗外正落着雨，不知道已经落了多少时候了。雨滴在石板上就象滴在他的心上一样。(家)  
(…部屋の中は死んだように重苦しい。蚊帳の中では蚊が悲しげにうなっている。窓の外は雨が降っているが、もうどれほどの時間降っているのだろう。石畳の上に落ちる雨は彼の心に降っているかのようだ。)

(7)ではふたつの存現句が並列されているが、先行句では「部屋」を主題としてその様子が述べられている。ひとつめの存現句では、「(部屋の中の)蚊帳」が句頭に提示され、ふたつめの存現句の句頭では「(部屋の)窓外」が提示されている。ここでは、「全体と部分」(あるいは「ある空間とそれに隣接する空間」という関係性がみられる。

次の(8)も類似の例である。例文中の動詞「传出」は本来は出現の意味を表しているというべきだが、ここでは絶え間ない繰り返しによって状態化している、すなわち静的存現句に準じるものと理解できよう。

(8)理发店门前的三色灯柱旋转着，也是夜景不熄的内心。老大昌的门里传出浓郁的巴西咖啡的香气，更是时光倒转。多么热闹的夜晚啊！(长恨歌 228)  
(理髪店の店先の3色のポールが回っている。これも休みを知らぬ夜景の深处だ。老大昌の戸口からは濃厚なブラジルコーヒーの香りが流れてくる。ますます時間が逆転する。なんと賑やかな夜であろう！)

(8)では、上海の夜の情景を述べた文章中に、上海にある店舗「老大昌」を場所とした存現句が置かれている。その直前の句の頭に置かれた「理髪店」もまた、上海にある店である。ここでも、全体(上海)と部分(「老大昌」)の關係が見られる。

以上のように、第2のタイプには、先行句と存現句との間に場所の重なり(全体と部分)あるいは隣接性が見られる。また、先行句は上例のように状態を表すものもあり、動作を表すものもある(動作を表す例は4.2.の例文④が該当する)。

Hopper (1979) には、物語の主筋では、動作・行為など動的な語句が用いられて、前景的な情報が提供され、一方、物語の副次的な箇所では、物事の状態

や付随状況、語り手の評価・コメントなどの、物語の主筋とは違った背景的な情報が提供されることが述べられている。

本節で分析した第1のタイプと第2のタイプのどちらも、物事の状態を述べているため、時間の進行に沿って展開する物語の主筋からは逸れた背景的情報を提供していることになる。背景的情報の例をさらに挙げれば、たとえば、例(3)の場合、コメントを述べた「并不为想吃什么，只是习惯成自然」の箇所と、存現句の「碗橱里有一些碗脚，上面积了一层薄膜」はともに背景的情報であって、物語の時間的進行・展開には関与していないのである。

### 2.3. 動的存現句とその先行句（その1）

出現を表す存現句（以下、動的存現句と称する）の場合は、その先行句との間に時間的な重なりや隣接関係が見られる。以下に、存現句と先行句との関係性から見て、ふたつのタイプに分けて見ていくこととする。

第1のタイプは、先行句において、動作・行為が開始、進行中、未完成、完成直後などのアスペクト的段階にあることが示されるという特徴が見られる。

(9) 话还没说完，外面忽然响起了脚步声，一个女性的声音唤着：“大表哥。”

(家) (まだ話し終わらないうちに、外でふいに足音がして、女性の声が「お従兄さん。」と叫んだ。)

(10) 我惊奇地想着，正想迈步走开，突然，马路两旁的小胡同里，又跑出了一群群手拿长竿，白布或白纸的人。(房客) (私は奇妙に思い、まさに離れ去ろうとしたときに、突然、通りの両脇の路地から、長い竿や白い布か白い紙を手にした人群れが走り出てきた。)

(11) 刚走出横弄，忽然身后冒出一声小孩子的尖叫：阿飞！她一回头，便看见… (长恨歌) (横道を出たとたん、突然うしろで幼い子供が「阿飛！」と呼ぶ甲高い声をした。彼女が振り返ると…)

上の(9)~(11)のように、ある動作・行為が始まったり（最中であったり、終わった）した時点で、突然、対象が出現し、それが存現句で表されるのである。

すなわち、先行句ではある「時点」が示され、存現句では、その時点における「瞬間的な」「出現」が現象として提示される。このように、先行句と存現句との間には、時間的な重なり（同時性）が見られるが、述べられた内容の間に

は因果関係等は見出せない。何の意味的関連もないふたつの動的な内容が、時間の重なりのみによって結び付けられているといえよう。動的存現句の第1のタイプは、物語の時間的進行に沿った動きを表しているため、Hopperの分類に照らせば、物語の主筋を構成する前景的な情報が提示されていることになる。

## 2. 4. 動的存現句とその先行句（その2）

第2のタイプは、存現句の句頭または先行句に、時間詞や時間を表す語句が置かれる。

(12) 过了一会儿她又喃喃地念着：“再过两天…”。这时外面起了吹哨声，觉慧又抬起头催促鸣凤：“快去，二少爷来了。”（家）（しばらくして彼女はまた口ごもって言った「もう二日たってから…」。この時、外で口笛がした。覚慧は顔を上げて鳴鳳をせきたてて言った。「さあ行けよ。二少爺が来たよ。」）

(13) 这时候，淮海路上又起来一批更年轻更大胆的时髦人物，张永红这一代已转向保守。（长恨歌）（この時、淮海路にまた、更に若く更に大胆な当世風の人物が出現した。張永紅の世代はすでに保守に転向していた。）

(14) 不一会儿，她手心里出了汗，额上也出了汗，眼前有些恍惚，不知白纱裙里的人是谁。她抬起头，看看前面的镜子…（长恨歌）（ほどなくして、彼女は掌に汗が出て、額にも汗が出て、目の前はボンヤリして、白いシルクのドレスを着ているのが誰なのかわからなくなった。彼女は顔を上げて目の前の鏡を見ると…）

次の(15)も、「～した時」という形式によって時を提示している。

(15) 当他们将屋子打扫干净时，听到了清晨的鸡叫，外面的天空出现了鱼肚白。然后两个孩子面朝外坐在门槛上，……（兄弟・上）（彼らが部屋をきれいに掃除し終わった時、早朝の鶏の鳴くのが聞こえ、外の空はほの白くなった。それから、このふたりの子供は外に向いて敷居に坐って、…）

以上のように、第2タイプは、時間の流れの中のある時点が先行句において提示され、その時点に、存現句の動詞によって表される「出現」という瞬間的な現象が起こったことを表している。先行句と存現句の間には時間的な重なりが見られ、この特徴は第1のタイプと共通したものである。

上述したタイプとはやや異なる様相を示すものの、先行句と存現句の両方で

動的な事態が述べられて、かつ、時間的な重なり・隣接性が見られる例がある。次の(16)では、先行句において、「窓を開け放した」、「太陽と風が入ってきた」という継起する動作・現象が述べられ、それに続いて「部屋に香りが満ちた」という事態が存現句を用いて表されている。

(16)她把窗户都打开，太阳和风进来，房间里充满了一股新东西才有的气味，没沾过人气的。王琦瑶也会有一刹那间的喜悦，…（长恨歌）（彼女が窓を開け放すと、陽光と風が入ってきて、部屋は新しいものもつ香り、人の臭いの沁みていない香りで満たされた。王琦瑶もその瞬間は喜びを感じたはずで…）

上例の存現句と先行句のいずれにも直接に時間を表す語句はないが、継起する動作や現象が表されていることから、時間の流れが伝わり、先行句と存現句の間に時間の隣接性が見られることがわかる。この例は、先行句と存現句の間に場所の重なりも見られ、また、因果関係に似たものも見られる（「窓を開けると太陽と風が入ってきて」と「部屋に新しい香りが満ちた」の間の意味的關係）。

例(16)は、動的内容であって、かつ、時間的な隣接性が見られることから、動的タイプに準じるものとみなすことができよう。

次に挙げる(17)と(18)では同一作品の中の、同一の事件に関して述べられているが、その存現句と先行句は、一方が動的タイプでもう一方が静的タイプであると認められる。

(17)继母又告诉他们：昨天晚上三婶和淑英也睡在这里，她们屋后的天井里落了一个炮弹把墙打坏了一个角，所以她们马上搬了出来。（家）（継母が彼らに言うには、昨晩は三番目のお婆と淑英もそこに寝たが、彼女達の部屋の裏庭に砲弾が落ちて壁の一角が壊れたので、すぐさま引っ越してきたのだ。）

(17)の「昨天晚上」は直接には「睡（在这里）」と結ばれているが、その時間の中のある時点（ことばで明示されていないが）に、存現句で表された事件が起こったのである。

次の(18)には、(17)と同じ事件を述べた存現句が置かれている。

(18)琴和淑英姊妹梳洗完毕，便陪着梅到园里各处走走。她们一路上谈了一些别后的光景。园子里没有受到什么大损害，只是松林里落了一颗开花炮弹，打坏了两株松树。（家193）（琴と淑英姊妹は、髪をとかしてから、梅に付き添って園内のあちこちを歩いた。歩きながら、(互いの)別離の後の境遇などについて語りあった。園内はたいした損害は受けていなかったが、

ただ、松林に砲弾が落ちて、松の樹が二株だめになっていた。)

(18)では、先行句で「庭園」の受けた損害について述べ、存現句では、「庭園」の一部の「松林」に起こった事件について述べている。存現句の述語動詞「落」からしても動的存現句に分類されようが、実際には、静的存現句と類似している印象を受ける。それは、(18)には、(17)と違って時間を表す語句が見られないために、事件の発生（出現）という動的な内容として述べるには要件が不備なのである。

以上のように、少数のタイプを除いて、先行句の特徴と存現句の性質（「存在」「出現」）との間には緊密な関係が見られることがわかる。

### 3. 「只見」構造との類似性

前節で見た静的・動的な先行句と存現句の間に見られる特徴は、「只見」を用いた構造の前件と後件の間に見られる特徴と類似している<sup>8)</sup>。

「只見」構造は：前件＋「只見」＋後件 で構成され、前件には時間に関した語句・表現が置かれて、後件には「新たな事象や出来事」が述べられる。それは「思いがけないこと」「際立ったこと」が「突然に」発生するのであるが、後件には必ずしも存現句だけが用いられるわけではなく、主述句も置かれるし、固有名詞も置かれる。前件と後件を繋ぐ位置にある「只見」（「只聴」なども）は、後件で述べられる事象・出来事が、知覚主体の知覚を通して提示される、ということを示していると理解できる。

「只見」構造の前件と後件の間に見られる特徴は：

- ① 前件に空間移動や姿勢の変化を表す動詞が置かれると、後件は静的な現象・事象（動作の持続を含む）が表される傾向がある。
- ② 前件の動詞が、動作の進行、開始、未完成、完成直後などのアスペクト的段階にあると、後件は動作や動的現象が表される傾向がある。

これに対し、先行句と存現句との関係は以下ようになる：

- I. 人物の空間移動・姿勢変化— 存在を表す存現句（静的）
- II. 背景的情報（状態性）—— 存在を表す存現句（静的）
- III. 動作のアスペクト的段階—— 出現を表す存現句（動的）
- IV. 時間を表す語句—— 出現を表す存現句（動的）

---

<sup>8)</sup> 「只見」の意味と用法については拙論（2004）で詳説している。

存現句の述語動詞は「存在」または「出現」の意味を表すものに限定されるが、「只見」構造の後件の述語動詞には特に制限がない。こうした違いを踏まえて、上に挙げた両者の特徴を引き比べると、①とⅠ、②とⅢが対応している。

Ⅱに対応する特徴が「只見」構造には見られないが、これは、「只見」で導かれるのが「際立った事象や出来事」であって、前景的情報を提供するものであることが、Ⅱの背景的情報とは矛盾するためであると考えられる。また、Ⅳとの対応も見られないが、「只見」構造には「時間を表す語句だけ」が置かれるという例は見られにくいためである。

このように、存現句と「只見」構造とは、その先行句（「只見」構造では前件）との関係において、かなりの程度で共通する特徴が見られる。

「只見」構造は旧白話小説の中で広範に用いられているもので、近現代以降の小説になるとその使用が激減しているが、一方で、存現句は旧白話小説の中ではさほど広くは見られない。ふたつの構造の歴史上の関係について今回は詳細な調査はできなかったため、ここではその類似性を指摘するに止めたい。

#### 4. 存現句と後続句の連続性

存現句の中では新情報が導入されるが、句末の名詞（句）によって表される「存在」「出現」の主体（存現主体）は、しばしば後続句へ引き継がれて談話主題となる<sup>9)</sup>。本節では、存現句と後続句の間における情報の連続性に関して考察する。

##### 4.1. 新情報が後続句に引き継がれるための要件

動詞の意味からして、消失する人物・事物は、後続句へ引き継がれない。

(19) 厨房里早早灭了火，谁也不想“消夜”吃点心了。（家）

（台所はとつくに火が消えていて、誰も夜食を食べようなどとしなくなった。）

ここでは「火」は後続句へは引き継がれなく、「火が消えたこと」の影響が後続句で述べられている。

---

<sup>9)</sup> 引き継がれた談話主題はゼロ主語、代名詞などの形式で表示されることが多い。王福祥（1994）は、後続する分句でゼロ主語となるものとして、「有」存在文、「出現了」出現文、知覚動詞「看見」に内包された存在文などを挙げている。また、田然（2004）は、小説中の承前省略はその70%が主語の承前省略であり、残りの20%の中で最多が、前句の最後のNPを後続でゼロ主語とする場合で、「短句」を特徴とする小説中に多く見られるという。また、後続句ではゼロ主語（すなわち前句の述部のNP）についての説明論述がなされるという。

次の例では、存現句の中で「出現」する人物（鳴鳳）が直後の句中で「消失」している。そのため、この少女（鳴鳳）は主要人物の一人ではあるがこの箇所で後続句に引き継がれることはない。

(20) 觉民笑了笑，就往前走了。觉慧依旧带笑地跟着他的哥哥走。他的脑海里现出来一个少女的影子，但是马上又消失了，因为他走进了上房，在他的眼前又换了新的景象。（家）（觉民はちょっと笑うと前を向いて歩いた。觉慧は相変わらず笑顔で兄について行った。彼の脳裏にはある少女の面影が現れたが、それはすぐに消えた。上房に入ると、目の前が新しい光景に変わったからである。）

次のように、物語の主筋とは無縁な背景的な人物が一時的に出現した場合は、後続句に引き継がれにくい。

(21) 暮色里，新月挂在柳梢——远远地走来一个绿衣的邮差。小小看见便放下扇子，跑着迎上去，接过两封信来。妹妹忙问：“谁来的信？”（寂寞）（夕暮れの中、新月が柳の梢に掛かっている——かなたから緑の服を着た郵便配達が来る。小小はそれを見ると扇を置いて、走っていき、手紙を二通受け取った。妹が「誰からなの？」と訊ねた。）

ここでの「郵便配達」は後続句には2度と現われない。

一般的に、後続句へは事物よりも人物のほうが引き継がれやすいが、次節では人物の場合について検討する。

#### 4. 2. 連続性—人物の導入の場合

人物の場合は、より重要な者は引き継がれやすく、身体部位など人に付属するものよりもその人自身のほうが引き継がれやすい。

次の(22)の存現句には、人物を導入する際の典型的な手法が用いられている。

(22) 前面假山背后转出来一个人影，是一个女子。她低着头慢慢地走着，手里拿了一枝柳条。她猛然抬起头，看见觉新立在树下，站住了，嘴唇微微动一下，象要说话，但是她并不说什么，就转过身默默地走了。（家）（前方の築山の後から人影が現れた。女の人だ。うつむいてゆっくりと歩いている。手には柳の枝を持っている。ふと顔を挙げて觉新が木の下に立っているのを見ると、立ち止まり、唇をかすかに動かし、なにか言いたそうだったが、身を翻すと黙って去っていった。）

上例のように、存現句の中に登場した新たな人物は後続文脈に引き継がれて談話主題となり、その動作、様子、外見などが詳しく述べられ語り継がれてい

く。

次の例では二人の人物が存現句で新たに導入されるが、そのうち、より重要な一人だけが後続句へ引き継がれる。

㉓ 刚出小弄堂，便看见前边横弄口一盏电灯下，站着那两个孩子，隔了一架自行车在说话。薇薇总是痴痴傻傻，张牙舞爪的样子，老远能听见她的笑声。薇薇又悄悄退了房回去，…（长恨歌）（路地を出ると、前方の横道への入り口の電燈の下に、あの子ら二人が立っていて、自転車を挟んで話をしているのが見えた。薇薇はきちがいじみて、凶暴な様子で、遠くからも彼女の笑い声が聞こえた。王琦瑶はまたこそごと部屋を後にして、…）

存現句の中の「二人の子供」のうち、後続句では、視点人物（王琦瑶）にとって重要な関心の対象である薇薇に関する様子が選択されて、その描写が続いている。

次の㉔のように、身体部位における心理現象や生理現象の発生を表すときは、心理・生理現象ではなく、それを経験する主体が後続句に引き継がれる傾向がある。

㉔ 他到底是个什么人呢？我心里忽然产生一股强烈的欲望-我要了解他！这天晚上，我到后面去弄煤，从一位名叫魏云清的房客的后窗下面经过。听见张桐在里面说话的声音，我站住了。（房客）（彼は一体何者だろう？私は心にふいに強い欲望が生まれた——彼を理解したい！この日の晩、裏手に石炭を取りに行くのに、魏雲清という泊り客の部屋の裏窓のところを通りかかった。と、張桐が部屋の中で話す声が聞こえたので、私は立ち止まった。）

上の例では、欲望自体ではなく、その欲望の持ち主である「私」が後続句へ引き継がれ、その行動が語り継がれていく。欲望は間接的にその意味的影響を及ぼすだけである。

次の例では「微笑」と、その微笑の持ち主との間に同様の様相が見られる。

㉕ “我们这学期读完了《宝岛》，下学期就要读托尔斯泰的《复活》。” 觉民对琴说，他的脸上现出得意的微笑，他们已经走出上房，刚下了石阶，向着他们的房间走去。（家）（僕達は今学期に『宝島』を読み終わった。来学期はトルストイの『復活』を読むんだ。」 觉民は琴に言った。顔に得意げな微笑が浮かんだ。彼らは上房を既に出て、石段を下りたところで、自分たちの部屋に向かって歩いていた。）

微笑ではなく、その表情の持ち主である覚民と、彼に同伴している琴の二人が後続句へ引き継がれて談話主題となっている。

このように、後続句へ引き継がれるか否かは、新情報を担う人物・事物の特性によるもので、存現句の動詞の意味特徴（「出現」「存在」とは関係しないようである。

#### 4. 3. 連続性—事物の導入の場合

事物は人物に比して後続句へ引き継がれることがはるかに少ないと考えられるが、ここでは、事物が後続文脈に引き継がれる例を見ていく。

(26) 十八号里退休自己干的裁缝，正忙着裁剪，老婆埋着头锁洞眼，面前开着电视机，谁也没工夫看。对了，虽然各家各事，可有一点却是一条心，那就是电视。无论打牌，喝酒，吵架，读书，看或是不看，听或是部听，那电视总开着。（长恨歌）（18号室は定年退職して自営で裁縫をしている。ちょうど裁断に忙しく、おかみさんは穴をかがるのに没頭していて、面前ではテレビがついているが誰も見るひまがない。そうだ、それぞれの家にそれぞれ事情があるけれど、心は一つであって、それこそがテレビなのだ。トランプや飲酒や口喧嘩や読書をしていても、見ても見なくても、聴いても聴かなくても、テレビはいつもついている。）

上の例では、存現句の中の「テレビ」は直後の句ではゼロ賓語の形式で引き継がれ、その後は後続文脈の中で談話主題として2度現われる。ただし、「テレビ」が表す意味概念は変化している。すなわち、存現句の中では具体的・個別的な「テレビ受像機」を指しているが、後続句では、抽象的・比喩的意味を担って「テレビ一般」を指し、その意味と機能に言及している。

2. 2. において挙げた例文(7)も同様の例である。ここに再掲する。

(7) …屋子里显得死气沉沉。帐子内响着一只蚊子的哀鸣。窗外正落着雨，不知道已经落了多少时候了。雨滴在石板上就象滴在他的心上一样。（家）

上例の下線部の存現句の中の「雨」は雨そのものを指しているが、その後続句では「彼」の心的状態を映し出す比喩的な語となり、「雨」のもつ本来の意味をやや変更しながら引き継がれている。

次の例では、存現句で導入された事物が直後の後続句にだけ引き継がれる。

(27) 忽然起了几声清脆的枪响，打破了夜的静寂。于是外面的狗狂叫起来，接着又是人的喊声，不过是从远处传来的。“完了，这一次一定逃不掉了！”觉新顿着脚嘶声说。（家）（突然、銃声が何発か鳴り響き、夜の静寂を破

った。すると、外の犬が吠え始め、続いて人の叫び声があがったが、それは遠くから伝わってきた。「ダメだ、今度はもう逃げられない！」(寛新は地団駄を踏んでかすれた声で言った。)

主人公一家がさしこまれた事態に避難すべきか動転している場面である。存現句の「銃声」は直後の小句でゼロ主語となるが、その後の文脈では引き継がれていない。それを継起に起こった事態(犬の吠え、人の叫び)が述べられているだけである。そうした状況下での人の行動・様子が述べられ、主筋にもどるのである。

以上のように、存現句で導入された事物が後続句へ引き継がれるときには、導入されたときの語彙の意味をそのまま保ち続けるのではなく、抽象化、比喩化などの方向へ意味をずらしながら引き継がれてゆく例も見られる。

## 5. 「定」名詞・旧情報の焦点化

存現句の存現主体は新たに導入される項目であって、新情報を担うことから、「不定」の名詞(句)であると言われることが多いが、実際には必ずしもそうではなく、「定」の名詞(句)が用いられる例が見られる。本節では、「定」名詞で旧情報を担うものが存現主体となって用いられる場合について、焦点化の問題と関連させて考察する。

次の例では物語の主人公が「数量詞+固有名詞」の形式をとって現われる。

(28) 王琦瑶是典型的上海弄堂的女儿。……每间偏厢房或者亭子间里，几乎都坐着一个王琦瑶。(长恨歌)(王琦瑶は上海の集合住宅に住む典型的な女の子だ。…どの厢房やあずまやにも、王琦瑶が坐っているのである。)

上例の存現句の中では、固有名詞「王琦瑶」に「一个」が付されている。「王琦瑶」は小説の中の最も主要な登場人物であるが、上海のどこにもいるような典型的な若い女性として特徴付けられている。「一个王琦瑶」という形式によって、「王琦瑶」の性質・特徴を備えた不定の人物を個別化して表している。

一般に言われるように、存現句の中で固有名詞が新出情報として提示されるときは、次の例のように数量詞をつけるなど「形式上の不定化」(刘1983)が要求される。

(29) 两千年前中国历史上有个秦始皇，…(刘の举例)

これは、日本語でいうと「固有名詞トイウ人」という言い方に相当する提示の仕方である。

しかし、一方で、実際には固有名詞が裸のまま存現句の句末に置かれた例も

珍しくない。徐(2002)は、次の(30)のように固有名詞などの定名詞であっても、それが情報上の焦点であるならば句末に置かれることを指摘し、この現象を「定・不定」の概念よりも、「焦点」の概念で説明すべきであると述べている。

(30)居然来了王老师。(なんと王先生がいらっしやった。)(徐の举例)

副詞「居然」が用いられていることから明白なように、「王老师が来た」という出来事全体が、話者にとっては思いがけないことであり、叙述の焦点となっている。また、思いがけないことは、それゆえに新情報に繋がるものをもっていても言えるのである。今回の調査でも、次の例のように、固有名詞が裸のまま句末に置かれたものが見られた。

(31) 仅只十分钟之后，他就看见王琦瑶了。在他的汽车里，从车窗的纱帘背后，看见一辆三轮车飞快地驶着，几乎与他的汽车平行，车上坐着王琦瑶。她穿一件旧大衣，头发有些叫风吹乱。她手里…(长恨歌)(わずか十分の後に、彼はもう王琦瑶を見た。自分の車で、窓のカーテンの背後から、三輪車が飛ぶように疾走しているのが見えたが、それが彼の車とほとんど並んで、その車には王琦瑶が乗っていた。彼女は古いコートを着て、髪は風で乱れていた。手には…)

ここでは、主人公の「王琦瑶」が、本来は新情報が置かれる句末の位置にあるが、視点人物である「彼」にとって、すれ違った車に「王琦瑶が乗っていた」ことは予想外の出来事であった。予想外の出来事は、そこに焦点が置かれる。ゆえに、既出情報であっても焦点となった場合は、存現句の句末に置かれることが可能となる。焦点化の規則が新情報の規則に優先していることになる。

次も同様の例である。

(32) 客厅里很暗，打蜡地板反着棕色的光，客厅那头的房门开着，有一块亮光，光里站着王琦瑶，穿了曳地的晨衣，头发留长，电烫成波浪，人就像高大了一圈。她们俩…(长恨歌)(客間は暗く、ワックスを塗った床は茶褐色の光を反射していて、客間の突き当たりの扉は開けてあり、そこは光がさしていて、光の中に王琦瑶が立っていた。引きずるような部屋着を着て、髪を長く伸ばし、パーマが波立つようにかかっている、一回り大きくなったかのようにだった。彼女らふたりは…)

上例は、友人の蔣麗莉が王琦瑶を訪ねてくる場面である。「光の中に王琦瑶が立っている」光景は、蔣には思ってもみなかったことであったため、「王琦瑶」は裸の固有名詞のまま句末の位置に置かれ、焦点化されるのである。

存現句の中で、固有名詞の本来の位置とは異なる句末に裸で置かれ、目立つ

方法で焦点化された固有名詞は、後続文脈へ最も引き継がれやすく談話主題になりやすいといえよう。また、存現句の動詞の「存在」／「出現」の違いは後続性の強弱には関与しないものと考えられる。上の例の存現句では「存在」（站着）が表わされているにも関わらず、背景的情報を提供しているとはいいがたい。「予想外の」「ことさらめだつ事態」が背景的とは考えがたいのである。

一方で、句末に置かれた「定」の名詞（句）の中には、後続文脈への連続性がさほど強くないものも見受けられる。

次の例は、「那个」によって指示された「定」の既出人物が、存現句の句末に置かれている。

- (33) 瑞宣跑到大门外，三号的门口没有人，一号的门口站着那个日本老婆婆。她向瑞宣鞠躬，瑞宣本来没有招呼过一号里的任何人，可是今天在匆忙之间，他还了一礼。（四世同堂）（瑞宣は大門の外に飛び出した、三番の門には誰もいなかった、一番の門口にあの日本人のお婆さんが立っていた。彼女は瑞宣におじぎをした。瑞宣は日頃一番の誰とも挨拶をしたことがなかったが、今日は慌しい中で彼もおじぎを返した）

上の例では、句末に置かれた「あの日本人のお婆あさん」は、直後の句で主題となるが、その後さらに談話主題として引き継がれてはいない。これは、ひとつには物語りの主人公である「瑞宣」が同一文脈に出ていることにより、卓立の高い「瑞宣」のほうが談話主題にはるかになりやすい、ということであろう。また、文中では「三号的門口」と「一号的門口」とを対比するように並列させている。このパターンは典型的な状態性の情報提示方式であって、Hopperによる物語の副次的な情報の部類に属するため、そうした形式の中で焦点の位置に置かれていることは、必ずしも強い後続性とは結びつかないのであろう。

次の例では3つの存現句が並んでいるが、それぞれの句末には親族関係等を表す語を伴って固有名詞が置かれている。

- (34) 围着一张方桌坐了六个人，上面坐着他的继母周氏和姑母张太太，左边坐着张家的琴表姐和嫂嫂李瑞，下面坐着大哥觉新和妹妹淑华，右边的两个位子空着。他和觉民向姑母行了礼，又招呼了琴，便在那两个空位子上坐下。（家）（角テーブルを囲んで6人が坐っていた。上手には彼の継母の周氏とお婆の張夫人が、左手にはいとこの張琴と嫂の李瑞が、下手には長兄の覚新と妹の淑華が、右手のふたつの席は空いている。彼（覚慧）と覚民はおばにあいさつをすると、琴に声をかけて空いている席に座ら

せた。)

上の例では、句末の固有名詞で表された複数の人物はそのいずれも後続文脈へ引き継がれていない。直後の句へも引き継がれない。これは、(33)と同様に、より卓立の高い人物である「彼(覚慧)と覚民」が同一文脈に現れていることと、「上手には…」「左手には…」「下手には…」という並列形式が、(33)の場合と同様に、句末の固有名詞の焦点化を弱化させているためかと考えられる。

## 6. おわりに

現代小説を材料にした小論の考察結果は以下のように纏められる。

1. 存現句とその先行句の間には、因果関係などの意味的な関係は見られず、時間的あるいは空間的な重なり（または隣接性）のみが見られる。すなわち、存在を表す存現句の場合は空間的重なり（または隣接性）、出現を表す動的な存現句の場合は時間的な重なり（または隣接性）である。この特徴は旧白話小説における語りの文章に多用される「只見」構造の特徴と類似している。

2. 存現句で新たに導入された項目は、必ずしも常に後続文脈へ引き継がれて談話主題となるわけではない。その成否は新規項目の焦点化の強弱（卓立の高低）が関与している。また、存現句の述語動詞の意味（「出現」/「存在」）は先行句との関係で機能するが、後続文脈への情報の引き継ぎの面では関与しない。

存現句は、現象文であるという側面と新情報を導入する機能をもつ側面とのふたつをもつが、この両者の強弱の違いによって、現象文としての性格がより強く出ることもあり、新情報の導入、後続文脈への継続、談話主題化という一連の機能が際立つ場合もある。その違いが如何なる要因とメカニズムに拠るものかは興味深いところであるが、今回はそのための調査・分析までは手が届かなかった。今後の課題とする。

## 〈参考文献〉

- 方梅 2005 〈篇章语法与汉语研究〉、刘丹青・主编《语言学前沿与汉语研究》、上海教育出版社、pp. 47-69
- 胡文泽 2004 〈汉语存现句及相关并列紧缩结构的认知功能语法分析〉、《语言教学与研究》第4期、pp. 1-13
- 胡壮麟 1994 《语篇的衔接与连贯》、上海外语教育出版社
- Hopper, P. J. 1979 “Aspect and Foregrounding in Discourse”, *Syntax and*

- Semantics vol. 12*, New York:Academic Press, pp.213-241
- Li, C.N. and S.A. Thompson. 1981 *Mandarin Chinese: A Functional Reference Grammar*, California: University of California Press. (黄宣范译《汉语语法》、台北:文鹤出版、1983)
- 廖秋思 1989 〈篇章中的管界问题〉、《中国语文》第4期、pp.250-261
- 刘月华·潘文娉·故骅 1983 《实用现代汉语语法》、北京:外语教学与研究出版社
- 屈承熹 1998 *A Discourse Grammar of Mandarin Chinese*, New York:Peter Lang Publishing, (潘文国·译《汉语篇章语法》、北京语言大学出版社、2006)
- 沈开木 1996 《现代汉语话语语言学》、商务印书馆
- 田然 2004 〈叙事语篇中NP省略的语篇条件与难度级差〉、《语言教学与研究》第2期、pp.40-45
- 王福祥 1994 《话语语言学概论》、外语教学与研究出版社(高橋弥守彦·続三義訳『中国語談話言語学概論』、白帝社、2008)
- 王静 2000 〈论语篇性质与话题的关系〉、《世界汉语教学》第4期、pp.42-47
- 2006 〈语篇与话题链关系初探〉、《世界汉语教学》第2期、pp.74-85
- 王力 1943-44 《中国现代语法》(上、下)、商务印书馆
- 吴卸耀 2006 《现代汉语存现句》、学林出版社
- 徐烈 2002 〈汉语是话语概念结构化语言吗?〉《中国语言》第5期、pp.400-410
- 邵敬敏 2001 《现代汉语通论》、上海教育出版社
- 今井敬子 2006 「中国語の語りにおける知覚動詞の用法について」、『人文論集』57-1、pp.49-66

### 〈例文引用文献〉

- 巴金 《家》、人民文学出版社、1981
- 冰心 《寂寞》、《当代女作家作品选》、花城出版社、1981
- 老舍 《四世同堂》、《老舍全集 第5卷》、人民文学出版社、1999
- 李纳 《撒尼大爹》、《当代女作家作品选》、花城出版社、1981
- 杨沫 《房客》、《当代女作家作品选》、花城出版社、1981
- 王安忆 《长恨歌》、作家出版社、1995
- 王朔 《过把瘾就死》、华艺出版社、1992
- 余华 《兄弟》(上部)、上海文艺出版社、2005

——《兄弟》（下部）、上海文艺出版社、2006